



顕彰記念館のテープカット (右端は明美夫人) 緑色蛍光タンパク質(GFP)の披露 授与された名誉博士記を披露する下村名誉博士(左)と片峰学長 記念講演 満席の講演会会場

下村脩長崎大学名誉博士ノーベル化学賞受賞記念講演会を開催

3月22日、2008年ノーベル化学賞を受賞した下村脩名誉博士が本学を訪問し、中部講堂において、ノーベル化学賞受賞記念講演を行いました。

講演会に先立ち、長崎大学名誉博士称号授与式が行われ、片峰学長から第1号の名誉博士記が授与され、併せて記念品が贈呈されました。

その後、大学生や長崎県内の高校生、中学生など700人を前に下村名誉博士による講演が行われました。

ノーベル化学賞受賞後、日本国内で初めてとなる講演は、「ノーベル賞受賞の原点・長崎大学」と題して、戦前から長崎県内で暮らしたことが、長崎に原爆が投下された日、長崎医科大学付属薬学専門部(現在の薬学部)に入学したときなど長崎にまつわる話から始まり、オワンクラゲから緑色蛍光タンパク質を発見するまでの苦労などが、時に「トモアを交えながら紹介され、聴講者は熱心に耳を傾けました。

最後に、若者に向けて、「どんなに難しいことでも、努力すれば何とかなる。絶対あきらめないで成功するまで頑張ろう」と激励の言葉が贈られ、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。

講演会終了後、薬学部にて完成した下村脩名誉博士顕彰記念館のオープニングセレモニーが催され、下村名誉博士や片峰学長らがテープカットを行いました。なお、同館には下村名誉博士の功績に関するパネルや論文など80点が展示され、平日の10時から17時まで一般公開されています。

平成21年度春季外国人留学生防犯・生活安全オリエンテーションを実施

4月22日、中部講堂において、本学に在籍するすべての外国人留学生を対象にした、「防犯・生活安全オリエンテーション」を、浦上警察署の協力を得て実施しました。

小路留学生センター長の挨拶に続き、浦上警察署生活安全課生活安全係長から、「安全な大学生活のために」と題し、留学生が犯罪の被害者とならないようにするための注意事項や、留学生自身が犯罪者とならないように守らなければならない社会のルールなどについて、講演が行われました。

その後、国際交流課から、留学生の就労が認められていないアルバイトの業種や労働時間数の上限などについての説明がありました。

なお、このオリエンテーションの内容は、国際交流課のスタッフにより英語と中国語で通訳されました。



講演を聴く留学生

古写真アルバムボードインコレクション」を登録有形文化財に答申

文化審議会は、3月19日、長崎大学が所有する古写真アルバム「ボードインコレクション」を登録有形文化財として登録するよう、文部科学大臣に答申しました。文化財名は「ボードイン収集紙焼付やきりけ」写真とし、美術工芸品としては全国で10件目の登録で、紙焼き写真では全国初の登録となります。

アルバム4冊、写真528点からなる「ボードインコレクション」(本誌20ページ参照)は、2007年秋に本学がボードインのご子孫から譲り受けた写真集であり、トマス・グラバーなどの外国人や坂本龍馬をはじめとする志士たちが活躍した幕末の長崎の写真を



ボードインコレクションのホームページ

多く含み、今回の答申では長崎の異文化交流の歴史が高く評価されたと云えます。

国立科学博物館 企画展「熱帯感染症と『たたかう』長崎大学」を開催

3月7日から15日まで、東京・上野公園の国立科学博物館において、企画展「熱帯感染症と『たたかう』長崎大学」を開催しました。

この企画展では、熱帯医学研究所におけるアフリカをはじめとした熱帯地域での「熱帯感染症」への取り組みを中心に、ノーベル化学賞を受賞した下村脩名誉博士の功績や、西洋医学150年の歩み、本学が所蔵する古写真コレクション、唯一の被爆大学として積み重ねてきた放射線医学に関する資料などを展示、紹介しました。

開催期間中、11,086人の入場者があり、会場は大いに賑わい、来場者からは「普段考えたこともないアフリカの感染症を知り、たいへん勉強になりました」などの感想が寄せられました。



住血吸虫などの寄生虫コーナー 青木教授から記念品を渡される1万人目の入場者

組みを中心に、ノーベル化学賞を受賞した下村脩名誉博士の功績や、西洋医学150年の歩み、本学が所蔵する古写真コレクション、唯一の被爆大学として積み重ねてきた放射線医学に関する資料などを展示、紹介しました。

開催期間中、11,086人の入場者があり、会場は大いに賑わい、来場者からは「普段考えたこともないアフリカの感染症を知り、たいへん勉強になりました」などの感想が寄せられました。



マラリア感染ゲームについて説明を受ける入場者

長崎大学全学同窓会 懇親会を開催

これまで学部単位と同窓会組織しかなかった本学に、平成17年10月、「全学同窓会」が設立されました。

このたび、各学部等同窓会の多大なる協力を得て、3月7日、東京において、設立以来初めて一堂に会する懇親会を開催しました。

今回の懇親会は、同日から始まった国立科学博物館における本学の企画展に合わせて、同博物館のラウンジで開催されたもので、200人を超える各学部の同窓生や文部科学省などで活躍されている本学出身の職員などが出席しました。

井石哲哉全学同窓会会長(医学部卒)、片峰学長(医学部卒)の挨拶に続き、福地茂雄日本放送協会会長(経済学部卒)の乾杯の発声で懇談が始まり、出身学部や年代を超えて盛り上がりしました。

最後に、この全学同窓会設立の際、尽力された齋藤寛前学長から、本学や同窓生に対して干渉が送られ、懇親会は終了しました。



福地日本放送協会会長 井石全学同窓会会長 齋藤前学長 片峰学長 長崎大学全学同窓会懇親会 寮歌を熱唱する経済学部同窓生

「第7回学長と卒業予定者との懇談会」を実施

3月16日、事務局第3会議室において、「第7回学長と卒業予定者との懇談会」を実施しました。

懇談会には片峰学長をはじめ、橋本理事、調理事、田井村副学長、都合により欠席した水産学部代表を除く各学部からの学生代表7名が参加しました。

懇談会では、片峰学長による進行のもと、授業評価や、カリキュラム編成など、授業・研究活動に関する内容について熱い議論が繰り広げられました。また、学生代表から「構内を禁煙化か分煙化のどちらかで徹底して欲しい」「就職支援を強化して欲しい」「生協以外の店舗は入れられないのか」など、さまざまな要望や質問が出され、片峰学長らは丁寧な説明、回答し、長崎大学をより良いものにすることを誓いました。

最終笑みが出られる和やかな雰囲気の中、懇談会は終了しました。



懇談会の様子